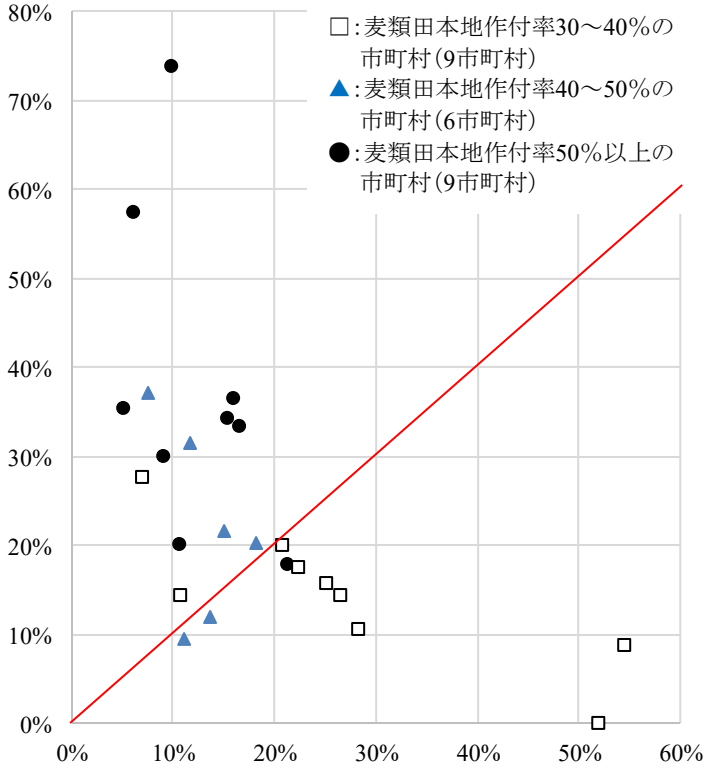
統計的研究の成果の概要（調査研究等の概要を含む。）

提供を受けたセンサスデータより、下記図 4 を作成した。

これは、2020 年時点で水田麦作が盛んに行われている市町村として、麦類田本地作付率 30%以上の実績のあった 24 市町村をピックアップし、10ha 以上販売農家農地集積率と 10ha 以上農家以外事業体農地集積率の関係をみたものである。これより、作付率 30～40%の市町村では、10ha 以上販売農家の農地集積率が 10ha 以上農家以外事業体のそれを上回るケースが多いことが分かる。また、作付率 40～50%の市町村、作付率 50%以上の市町村になると、逆に後者が前者を上回るケースが多くなる。

このように、今日水田麦作が盛んな市町村においては、大規模な土地利用型農業経営体による農地集積が進んでおり、それら経営体が水田麦作を担っているといえる。そして麦作の担い手としては、大規模個別経営が中心的に担っているケース、大規模組織経営が中心的に担っているケース、両者が共存しているケースと多様であることが判明した。

図4　10ha以上販売農家農地集積率（横軸）と10ha以上農家以外事業体農地集積率の関係：2020年




出所：農林水産省「農林業センサス」、農林水産省「耕地及び作付面積統計」より作成。